

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【道祖土小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	全体的には、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図れた。一方で、個人差が大きいことから「ドリルパーク」や「スタディサプリ」等の個別最適化されたアプリを活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組ませることを来年度も継続していく。また、次年度の学力向上目標としては、学校全体として、課題となっている、「言葉の特徴や使いに関する事項」を全学年で重点的に取り組み、R7年度の全国学力・学習状況調査等で検証したい。
思考・判断・表現	国語では、「話すこと・聞くこと」に今年度も課題がみられた。国語に限らず、児童が自分の考えをもち、伝え合う活動や説明する場面、発表する場面を意図的に設定し、その際、児童が思考したプロセスを確実に評価することを今後も継続していく。さらに、教科横断的な視点として、グラフ等の資料を用いる際、資料の見方を高めていく意図的な発問を教師が意識して授業を展開していく。そして、各教科の授業で、根拠資料を基に、自己の考えをまとめ、発表する活動も引き続き重視していく。

①		今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題		授業改善策【評価方法】
知識・技能	〈学習上の課題〉国語では、「言葉の使い方や文法」「漢字」などの基礎的な内容に課題がみられた。算数では、主に「数と計算」に課題がみられた。 〈指導上の課題〉児童が反復・習熟に取り組む時間の設定が、十分でないことが考えられる。	⇒	基礎・基本を定着させるために、「ドリルパーク」や「スタディサプリ」等の個別最適化されたアプリを活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む【効果的な習熟の時間の設定】。その際、児童自身が個別に自分の課題を把握する時間を設定する【単元ごとの実施】。
思考・判断・表現	〈学習上の課題〉国語では、「話すこと・聞くこと」に課題がみられた。算数では、「変化と関係」や「データの活用」に課題がみられた。 〈指導上の課題〉児童が、目的意識や相手意識を明確にして、自己表現する必要がある。	⇒	児童が自分の考えをもち、伝え合う活動や説明する場面、発表する場面を意図的に設定する【単元ごとの実施】。その際、評価の観点を示し、児童が思考したプロセスを確実に評価する。【毎回実施】

⑤	評価(※)	調査結果	授業改善策の達成状況
知識・技能	B		「ドリルパーク」や「スタディサプリ」等の個別最適化されたアプリを活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組ませることができた。その際、自分の課題を設定した上で、学習に取り組むことができた。国語では、「言葉の使い方や文法」「漢字」などの基礎的な内容に課題がみられたが、市や全国の平均正答率と比較すると学年によって差はあるものの、学校全体として上回る結果となった。算数では、主に「数と計算」に課題がみられたが、市や全国の平均正答率と比較すると学校全体として上回る結果となった。
思考・判断・表現	B		児童が自分の考えをもち、伝え合う活動や説明する場面、発表する場面を意図的に設定した。またその際、評価の観点を示すことで、児童は明確な目標を具体的にイメージしながら発表することができている。国語では、「話すこと・聞くこと」に今年度も課題がみられた。算数では、「変化と関係」には課題がみられ、「データの活用」には市の平均正答率を上回るなど、改善がみられた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語における本校の結果は、評価の観点において埼玉県平均・全国平均と比較すると、ともに上回る結果となった。ただし、「情報の扱いに関する事項」が埼玉県平均・全国平均ともに下回る結果となった。具体的には、情報と情報との関係の仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうか課題がみられた。考えをより明確なものにしたり、思考をまとめたりする活動を、今後も継続していく。 算数における本校の結果は、評価の観点において、埼玉県平均・全国平均と比較すると、ともに上回る結果となった。ただし、知識・技能を問う問題の半数以上(9問中5問)で埼玉県平均・全国平均よりも高い無解答率の結果となった。引き続き習熟学習を確保しながら、学びに向かうために必要な技能面の定着を心掛けていきたい。
思考・判断・表現	国語における本校の結果は、評価の観点において埼玉県平均・全国平均と比較すると、ともに上回る結果となった。また昨年度、本校の課題となった「話すこと・聞くこと」の項目では、改善がみられ、どの設問も正答率が高い結果となった。一方で全国でみられた課題と同様、事実と感想、意見との区別が明確でないなど、自分の考えを伝えるための書き表し方の工夫に課題がみられた。また人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかを見る問題にも課題がみられた。 算数における本校の結果は、評価の観点において、埼玉県平均・全国平均と比較すると、ともに上回る結果となった。ただし、思考・判断・表現を問う問題の半数以上(7問中5問)で埼玉県平均・全国平均よりも高い無解答率の結果となった。国・算共に、子どもが主体となって学習を進めていく学習過程の改善が必要である。

- 結果分析(管理職・学年主任等)
- 詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語における本校の結果の中で、課題として共通の内容は、「漢字を正しく書くこと」「文の中の主語と述語の関係を理解することができる」である。今後も継続して基礎・基本を定着させる活動を意図的に取り入れていく必要がある。 算数における本校の結果の中で、課題として共通の内容は「数と計算」の領域であった。国語と同様に算数においても、今後も継続して基礎・基本を定着させる活動を意図的に取り入れていく必要がある。 理科については5・6年共通して、「電気の通り道を「回路」ということを理解している。」に課題がみられるなど基本的な問題を盲然としていく必要がある。
思考・判断・表現	国語における本校の結果は、全体的に市の正答率を上回る結果となった。しかし、その中でも「読むこと」の領域の、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することを問う問題では、どの学年でも課題がみられた。 算数における本校の結果は、二つの数量関係の場面と図を関連付けて考える問題の正答率が、特に課題と言える。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	「ドリルパーク」や「スタディサプリ」等の個別最適化されたアプリを活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組ませることができた。その際、自分の課題を設定し取り組むことができた。	変更なし
思考・判断・表現	B	児童が自分の考えをもち、伝え合う活動や説明する場面、発表する場面を意図的に設定し、その際、評価の観点を示すことができた。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【道祖土小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 国語「言葉の特徴や使い方に関する事項」 算数「数と計算」 <指導上の課題> 個人差が大きい。個に応じた指導を、充実させていく必要がある。	⇒ 授業の最初に前時等の学習を振り返り、その内容を生かして本時の課題を設定する【毎時間】。 基礎・基本を定着させるために、「ドリルパーク」や「スタディサプリ」等の個別最適化されたアプリを活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む【効果的な習熟の時間の設定】。その際、児童自身が個別に自分の課題を把握する時間を設定する【単元ごとの実施】。
思考・判断・表現	<学習上の課題> 国語「話すこと・聞くこと」 算数・社会・理科等「グラフ等の資料の読み取り方」 <指導上の課題> 目的意識や相手意識を明確にして、自己表現する必要がある。	⇒ 児童が自分の考えをもち、伝え合う活動や説明する場面、発表する場面を意図的に設定する【単元ごとの実施】。その際、評価の観点を示し、児童が思考したプロセスを確実に評価する【毎回実施】。グラフ等の資料の読み取りを教科横断的な視点で指導を重ね、習熟を図る【単元ごとの実施】。

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能		
思考・判断・表現		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能			
思考・判断・表現			

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)